

日本産鳥類記録リスト (5)

日本産鳥類記録委員会*

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っている。今回はウグイス科の5種について調査結果を報告する。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性などについては未検討であることに注意されたい。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、記録委員会にお知らせいただきたい。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いする。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌 51(2): 132-133. 「日本産鳥類記録リスト」を参照されたい。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧いただきたい。

27. シベリアセンニュウ *Locustella certhiola* (表1)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として3例が挙げられており、全て亜種シベリアセンニュウ *L. c. rubescens* とされている。本委員会の調査により、文献上13例の記録が確認された(表1)。

記録1 (Austin & Kuroda 1953) は、北海道利尻島にて記録されたもので、記録年、場所、記録者と記録が発表された経緯などについての記述が掲載されている。Austin & Kuroda (1953) によれば、この記録は、1952年9月に開かれた鳥学会の会合で中村幸雄氏によって初めて報告された。Austin & Kuroda (1953) は、中村幸雄氏の発表内容を「彼の口頭発表によれば、この鳥は北海道の礼文島および利尻島において、定期的に渡来する夏鳥と思われる、彼は1949年と1950年の短い訪問の間に両島において、それが囀っているのを聞いたが、本種が非常に用心深く神経質だったので、1952年夏の利尻島まで、標本を採集することができなかった」(原文英語)と記述している。この記録は、黒田(1965)、Brazil (1991) にも掲載されているが、日本鳥学会(1958)は、本記録を目録本文には採用せず、脚註に「中村幸雄氏によれば、1952年(夏)、*Locustella certhiola minor* が北海道の礼文島、利尻

島において、観察および声が聞かれ、1個体が採集された。しかしながら、我々は、その標本を調査することができなかった」(原文英語)とのみ記述している。さらに、日本鳥学会(1974)でも、本記録は採用されず、脚註に「利尻島からの *L. certhiola* (1標本が採集され、失われたといわれている、ほとんど確実に誤記録である)」(原文英語)と記述している。黒田(1965)にも本記録の標本について「紛失といわれていた」との記述が掲載されている。なお、日本鳥学会(2000)には、本記録について全く記述がない。この記録の裏付けとなる標本のかつての保管場所および失われた経緯については、現在のところ不明である。本記録の亜種について、Austin & Kuroda (1953) は、亜種 *L. c. minor* としているが、その同定根拠については記述がない。シベリアセンニュウという亜種和名は、日本鳥学会(1932, 1942, 1958)では、*L. c. minor* に対して使用されていたが、日本鳥学会(2000)では、*L. c. rubescens* に対しこの亜種和名を使用している。

記録2 (黒田 1965) は北海道網走にて記録されたもので、記録された個体について、口頭での私信に基づき「内田康夫氏は1961年(昭. 36)6月網走の原生花園で1羽を確認された」との記述のみが掲載されている。この記録は、Brazil (1991) にも掲載されている。

記録3 (黒田 1965) は北海道利尻島にて記録されたもので、記録された個体について「鷺泊灯台地の草地で1羽低く飛び立ちすぐ草に入るを近くみる。背面褐色に縦斑、尾は外側各羽先端白いのを確認した」との記述のみが掲載されている。黒田(1965)には、調査期間が1965年6月7-9日であったことが記述されている、本記録が期間中いずれの日に観察されたのかについては明記されていない。

記録4 (山階鳥類研究所標識研究室 1986) は、北海道枝幸郡にて記録されたもので、記録された個体について「昭和60(1985)年9月29日、北海道枝幸郡浜頓別町浜頓別1級ステーションにて1羽(U・A)が協力調査員山内 昇氏により標識放鳥(025-44111)された。日本初記録である」との記述のみが掲載されている。この記録は、Kawaji & Abe (1988) にも引用されており、上記情報に加え、捕獲された環境について「天然二次林に囲まれた草原であった」(原文英語)との記述が掲載され

表1. シベリアセンニュウ *Locustella certhiola*

No.	記録 年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の 掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1952.夏	北海道	利尻島	—	—	1	中村幸雄	採集	—	1	3, 6, 15, 16
2 D	1961.6	北海道	網走原生花 園	—	—	1	内田康夫	観察	—	6	3
3	1965.6	北海道	利尻島	—	—	1	黒田長久	観察	—	6	
4 D	1985.9.29	北海道	枝幸郡浜頓 別町	成鳥	不明	1	山内 昇	捕獲, 標識	—	24	3, 4, 17, 25
5 D	1987.5.28	石川県	舳倉島	—	—	1	Mark Brazil	観察	—	3	2, 18, 17
6	1987.11.15	鹿児島県	国分市	成鳥	オス	1	川路則友, 阿部淳一	捕獲, 標識	カラー4	4	3, 8, 9, 17, 25
7	1998.9.18	鳥取県	米子市米子 水鳥公園	第1回 冬羽	不明	1	—	標識, 撮影	カラー1	11	7, 10
8 D	1999.5	沖縄県	沖縄島金武 町	—	—	—	—	観察	—	21	
9	2002.5.1	沖縄県	与那国島	—	—	3+	宇山大樹	観察	—	22	
10	2003.3.10– 5.16	沖縄県	与那国島	第1回 冬羽 成鳥	—	1–10+	宇山大樹	観察, 撮影	カラー1	22	
11	2003.6.3	島根県	益田市	—	—	—	石本賢治	観察, 撮影	カラー2, 石本賢治	10	
12	2003.6.7	石川県	輪島市舳 倉島	—	—	1	前田崇雄, 前田敦子	観察	—	19	
13	2003.10.27– 11.26	沖縄県	与那国島	幼鳥, 成鳥	—	1–5	宇山大樹	観察	—	23	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

ている。なお, 山階鳥類研究所標識研究室(1986), Kawaji & Abe (1988) のいずれも, 本記録の個体について亜種の同定を行っていないが, 日本鳥学会(2000) は本記録を *L. c. rubescens* として掲載している。

記録5 (Brazil 1991) は, 石川県舳倉島にて記録されたもので, 記録された個体について「1987年5月28日に1羽が舳倉島で見られた」(原文英語)との記述のみが掲載されている。この記録は, Brazil (1991) に Brazil (1987) を引用する形で掲載されているが, Brazil (1987) について本委員会では今のところ入手ができず内容については未調査である。この記録は日本野鳥の会(1988)にも掲載されているが, 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1988)には掲載されていないことから公式記録としては認められなかったものと推測される。日本野鳥の会(1988), Brazil (1991) のいずれも, 本記録の個体について亜種の同定を行っていないが, 日本鳥学会(2000) は, 本記録を *L. c. rubescens* として掲載している。

記録6 (Kawaji & Abe 1988) は, 鹿児島県国分市にて記録されたもので, 記録された環境, 詳しい

形態の記述(羽色および測定値)と亜種 *L. c. rubescens* に同定された根拠が掲載されている。この記録は山階鳥類研究所(1988), Brazil (1991), 五百沢ら(2000, 2004) など多数の文献に掲載されている。このうち, 山階鳥類研究所標識研究室(1988)には Kawaji & Abe (1988) に掲載されていない情報として, 足環番号が掲載されている。また, 五百沢ら(2000, 2004) は, 本記録の個体について「冬羽」と記述している。

記録7(無記名1999)は, 鳥取県米子市にて記録されたもので, 記録された個体について「1998年9月18日米子水鳥公園において標識放鳥したものである」「今回, 標識したシベリアセンニュウは, 第1回冬羽で胸に幼鳥の特徴である黒の縦斑があった」との記述に加え, 測定値と「日本で3例目, 本州での初記録」であることが掲載されている。この記録は, 市橋(2000), 石本(2005)にも掲載されている。

記録8(沖縄野鳥研究会2002)は, 沖縄県沖縄島にて記録されたもので, 記録された個体について「1999年5月に沖縄島金武町で観察記録されている」との記述のみが掲載されている。

記録9(宇山 2003a)は、沖縄県与那国島にて記録されたもので、記録された個体について「2002年の調査時は最終日の5月1日に本種の囀りを聞き、3羽以上確認された内の1羽を近くで観察することができた」との記述のみが掲載されている。

記録10(宇山 2003a)は、沖縄県与那国島にて記録されたもので、記録年月日、個体数、記録時の状況、記録された環境、記録された個体の鳴き声、形態、換羽などについての記述が掲載されている。宇山(2003a)によれば、3月10日から5月16日まで1日1-5羽が記録され、合計個体数は10羽以上であった。

記録11(石本 2005)は、島根県益田市にて記録されたもので、記録年月日、場所、記録時の状況、記録された個体の鳴き声、同定の根拠などについての記述と「島根県初記録」との記述が掲載されている。石本(2005)には、記録された個体数について明記されていないが、1羽とのことである(石本賢治氏私信)。

記録12(日本野鳥の会石川支部 2004)は、石川県舳倉島にて記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者の他、記録された個体の形態について「形態からはセンニュウ類であった。体の上面のみ縦斑があり、尾羽は体とはコントラストのある褐色で、尾羽先端には白斑があった」との記述が掲載されている。なお、この個体の写真は撮影されていないとのことである(前田崇雄氏私信)。

記録13(宇山 2003b)は、沖縄県与那国島にて記録されたもので、記録年月日、個体数、記録時の状況、記録された環境、記録された個体の鳴き声、形態などについての記述が掲載されている。宇山(2003b)によれば、11月以降は、ほぼ毎日1-5羽が確認され、成鳥よりも幼鳥の方が多かった。宇山(2003b)は、記録された個体について「このまま越冬し、春まで滞在するものと思われる」と推測している。

この他、山階鳥類研究所(2001)掲載の2000年新放鳥一覧表にトカラステーション内において1羽が放鳥されたことが記述されている。しかし、正確な記録場所が明らかではなく(トカラステーションとは特定の島ではなく、トカラ列島周辺の広い地域を指す)、記録月日も特定できないことから、参考として挙げるにとどめる。また、記録1に関連して Austin & Kuroda(1953)は、中村幸雄氏が1949年と1950年に礼文島と利尻島におい

て、本種が囀っているのを聞いたことを記述しているが、記録年と記録場所の関係が曖昧なため、ここでは参考として挙げるにとどめる。なお、中村(1969)によれば、中村幸雄氏は1949年と1950年に北海道各地の鳥獣調査に赴いており、その調査期間は1949年2月6日-8月1日と1950年9月30日-10月18日であるが、利尻島、礼文島の滞在期間は不明である。なお、1949年および1950年の記録は Brazil(1991)にも掲載されており、小林(1956)にも、Austin & Kuroda(1953)に基づくと思われる「北海道の利尻島・礼文島には夏鳥として渡来し、繁殖していることが中村幸雄氏により報じられた」との記述が掲載されている。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Austin OL & Kuroda N (1953) The birds of Japan: Their status and distribution. Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard **109**(4): 279-613.
2. Brazil MA (1987) Bird notes from Japan Vol. 23. (出版者不明)
3. Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
4. Kawaji N & Abe J (1988) Records of the Pallas's Grasshopper Warbler *Locustella certhiola* from Japan. J. Yamashina Inst. Ornith. **20**(2): 107-110+plate.
5. 小林桂助(1956) 原色日本鳥類図鑑. 保育社, 大阪.
6. 黒田長久(1965) 北海道の鳥類調査. 山階鳥研報 **4**(3/4): 224-268.
7. 市橋直規(2000) 10年間で33419羽を新放鳥 中海ステーション. 山陰バンダラーの会機関誌 Recovery (14): 3-7.
8. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000) 日本の鳥550山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
9. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2004) 日本の鳥550山野の鳥増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
10. 石本賢治(2005) 1998年から2003年までに観察した島根県で初記録と思われる鳥. ホシザキグリーン財団研究報告(8): 303-306.
11. 無記名(1999) シベリアセンニュウ日本で3例目. 山陰バンダラーの会機関誌 Recovery (13): 1.
12. 中村幸雄(1969) 甲斐の鳥たち. 山梨日日新聞社, 甲府.
13. 日本鳥学会(1932) 改訂日本鳥類目録. 日本鳥学会, 東京.
14. 日本鳥学会(1942) 日本鳥類目録改訂三版. 日本鳥学会, 東京.
15. 日本鳥学会(1958) 日本鳥類目録改訂四版. 日本鳥学会, 東京.
16. 日本鳥学会(1974) 日本鳥類目録改訂第5版. 学習研究社, 東京.
17. 日本鳥学会(2000) 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 北海道.

- 18. 日本野鳥の会 (1988) フィールドノート. 野鳥 53(1): 32.
- 19. 日本野鳥の会石川支部 (2004) 石川野鳥年鑑2003. 日本野鳥の会石川支部.
- 20. 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1988) 野鳥情報・観察記録 1988.1-1988.12. Strix 7: 305-308.
- 21. 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
- 22. 宇山大樹 (2003a) 与那国島・春の鳥類II (2003年3月10日~5月16日までの観察記録) 概要版. Hobby's World, 東京.
- 23. 宇山大樹 (2003b) 与那国島・秋の鳥類I (2003年9月12日~10月14日・10月26日~11月26日までの観察記録) 概要版. Hobby's World, 東京.
- 24. 山階鳥類研究所標識研究室 (1986) 昭和60年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 千葉.
- 25. 山階鳥類研究所標識研究室 (1988) 昭和62年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 千葉.
- 26. 山階鳥類研究所 (2001) 平成12年度環境省委託調査鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 千葉.

28. セスジコヨシキリ *Acrocephalus sorghophilus* (表2)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず, Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない. 本委員会の調査により, 文献上1例の記録が確認された(表2).

記録1(五百沢ら2004)は, 沖縄県与那国島で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 性別, 記録者の他, 形態的な特徴が写真のキャプションとして掲載されている. また, 五百沢ら(2004)には,

本種の生息環境として「与那国島では, 竹林・ギンネムなどのやぶで見ついている」との記述が掲載されている. なお, 記録された個体数について五百沢ら(2004)は明記していないが, 1羽とのことである(小倉 豪氏私信).

引用文献(文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

- 1. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥550山野の鳥増補改訂版. 文一総合出版, 東京.

29. イナダヨシキリ *Acrocephalus agricola* (表3)

日本鳥類目録改訂第6版では, 同定可能な写真または標本がない, 2亜種以上がある種で亜種を同定できない, 論文として公表されていないとの理由から検討中の種として Appendix B に掲載されている. 本委員会の調査により, 文献上3例の記録が確認された(表3).

記録1(日本野鳥の会野鳥記録委員会1992)は, 石川県舩倉島で記録されたもので, 記録年月日, 場所, 個体数, 記録者の他, 「亜種の識別ができないが, *tangorum* を本種の一亜種とする説(山階1986)をとって, この個体をイナダヨシキリと認める. 本邦初記録」との記述が掲載されているが, 同定の根拠などについては記述がない. なお, 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)には「写真あり」との記述があるが写真は掲載されていない. この記録は, 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1992)

表2. セスジコヨシキリ *Acrocephalus sorghophilus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典
1	2002.10.11	沖縄県	与那国島	—	—	—	小倉 豪	標識, 放鳥	カラー2, 小倉 豪	1

—: 記述なし・掲載なし

表3. イナダヨシキリ *Acrocephalus agricola*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1 D	1992.5.5	石川県	輪島市 舩倉島	—	—	1	土橋信夫	撮影	— (関連文献にあり)	7	1, 3, 4, 5, 8
2	1996.4.24	京都府	宇治川	—	—	1	Neil Davidson	観察	—	2	
3 D	2003.6.7	石川県	輪島市 舩倉島	—	—	1	前田崇雄, 前田敦子	観察	—	6	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

他にも多くの文献（日本野鳥の会 1992, 橋 1992, バーダー編集部 1993, 五百沢ら 2000, 2004）に掲載されている。なお、日本野鳥の会 (1992) には記録者として、土橋信夫氏と石井照明氏の名前が掲載されている。また、バーダー編集部(1993)と五百沢ら (2000, 2004) には、土橋信夫氏撮影のカラー写真が掲載されている。

記録2 (Davidson 1996) は、京都府宇治川で記録されたもので、記録された個体について、観察時の状況や形態、行動、さえずり、同定の根拠についての記述が掲載されているが「その同定には、多少の疑問が残った」との記述も掲載されている。

記録3 (日本野鳥の会石川支部 2004) は、石川県舳倉島で記録されたものであるが、記録年月日、場所、個体数、記録者の他、観察された内容として「地鳴き」との記述が掲載されているのみである。なお、この個体の写真は撮影されていないとのことである (前田崇雄氏私信)。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部 (1993) 続珍鳥・迷鳥大集合!! Birder 7(7): 8-9, 12-13, 22-23.
2. Davidson N (1996) イナダヨシキリ観察記. そんぐぼすと (81): 14.
3. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥 550 山野の鳥増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
5. 日本野鳥の会 (1992) フィールドノート. 野鳥 57(12): 51.
6. 日本野鳥の会石川支部 (2004) 石川野鳥年鑑 2003. 日本野鳥の会石川支部.
7. 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1992) 野鳥情報・観察記録 1991.8-1992.7. Strix 11: 377-382.
8. 橋 映州 (1992) 舳倉島全記録鳥種目録作成ご協力をお願い. 野鳥 57(11): 48.

30. シベリアヨシキリ *Acrocephalus dumetorum* (表4)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B 検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上2例の記録が確認された(表4)。

記録1 (藤巻 2000) は北海道渡島支庁福島町にて記録されたもので、記録年月日と場所、標識されたものであること、新聞 (1999年11月27日付け北海道新聞) を引用したものであることのみが記述されている。藤巻 (2000) は、本記録を目録本文には採用せず「この目録で採用しなかった種・亜種とその理由」の項に記述しており、採用しなかった理由として「日本鳥類目録委員会 (2000) が、まだ採用していない」ことを挙げている。なお、藤巻 (2000) は、本種の和名として「ヤブヨシキリ」を使用している。この記録は、道南バンディング研究会 (2000)、高原ら (2001)、沖縄野鳥研究会 (2002)、林 (2004) にも掲載されている。林 (2004) には、足環を付けずに放鳥したことや、この記録が日本初記録となったことなどが記述されており、道南バンディング研究会 (2000) には、本記録個体について測定と写真撮影を行った後に放鳥したことや同定の経緯とともに測定値が掲載されている。道南バンディング研究会 (2000)、高原ら (2001)、沖縄野鳥研究会 (2002)、林 (2004) は、いずれも、記録場所を「福島町千軒」と記述している。なお、この個体の放鳥者は林 吉彦氏であり、捕獲したのは1羽とのことである (林 吉彦氏私信)。

記録2 (高原ら 2001) は、沖縄県久米島の東に隣接する奥武島にて記録されたもので、記録された個体の形態についての記述と測定値、鳥類標識作業中に捕獲されたものであること、国内2例目、沖縄県初記録であることなどが掲載されている。

表4. シベリアヨシキリ *Acrocephalus dumetorum*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	D 1999.10.22	北海道	福島千軒	—	—	1	—	標識	— (関連文献にあり)	2	1, 3, 4, 5
2	2000.5.3	沖縄県	奥武島	—	—	1	高原建二, 前原一統, 嘉手苅初子, 松田史郎	捕獲, 標識	モノクロ1	5	4

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述 (種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など) のみ

表5. ハシブトオオヨシキリ *Acrocephalus aedon*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1 D	1927.5	長野県	北佐久郡岩村田	不明	不明	1	初山徳太郎	採集	—	5	1, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 14
2 D	1993.5.23-24	福岡県	粕屋郡新宮町相ノ島	—	—	—	岡部海都	観察	—	12	11
3	1997.2.5-4.16	静岡県	富士市四丁河原	第1回冬羽	オス	1	渡辺修治, 原徹, 原島政巳	観察, 捕獲	カラー1, 渡辺修治・標識	12	2, 3, 4, 10, 13, 14
4	1998.10.13	北海道	亀田郡七飯町字飯田町	第1回冬羽	不明	1	田中正彦	捕獲, 標識, 撮影	モノクロ1	14	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

この記録は、沖縄野鳥研究会(2002)にも掲載されているが、記録された個体については「2000年5月3日に奥武島における標識調査中に捕獲された個体である」との記述のみが前原一統氏撮影のカラー写真とともに掲載されている。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 道南バンディング研究会(2000)2000年度第15回日本鳥類標識協会全国大会 北海道松前・白神大会 開催要項・講演要旨集。
2. 藤巻裕蔵(2000)北海道鳥類目録改訂2版。帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広。
3. 林吉彦(2004)私の網場。Bander News in Hokkaido (2): 4-5。
4. 沖縄野鳥研究会(2002)沖縄の野鳥。新報出版, 那覇。
5. 高原建二・前原一統・嘉手苅初子・松田史郎(2001)久米島における最近の鳥類記録について。久米島自然文化センター紀要創刊号: 1-19。

31. ハシブトオオヨシキリ *Acrocephalus aedon* (表5)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として2例が挙げられており、全て亜種ハシブトオオヨシキリ *A. a. stegmanni* とされている。本委員会の調査により、文献上4例の記録が確認された(表5)。

記録1(初山1932)は、長野県北佐久郡で記録されたもので、記録年月と記録場所、標本番号、性別不明であるとの記述のみが掲載されている。初山(1932)は本種の学名として *Phragmaticola aedon* を使用している。この記録は、日本初記録として Brazil(1991)、山階鳥類研究所(1998, 1999)など多くの文献に掲載されている。なお、初山(1932)

は、本記録の個体について亜種の同定を行っていないが、日本鳥学会(1932, 1942, 1958)は、*P. a. rufescens*、日本鳥学会(1974)は、*A. aedon* に亜種を認めず本記録を単型種 *A. aedon* とした。さらに、日本鳥学会(2000)は再び亜種に分割する立場をとり、本記録を *A. a. stegmanni* として掲載している(*A. a. stegmanni* は、*A. a. rufescens* の新置換名)。この記録の裏付けとなる標本は、現在、山階鳥類研究所に保管されている(標本番号: 山階鳥類研究所初山コレクション30.2049)。

記録2(渡辺ら1997)は、福岡県相ノ島で記録されたもので、記録年月日と囀りが聞かれたことが記述されている。渡辺ら(1997)では、この記録は岡部氏からの私信に基づいて記述されている。記録時の状況は、岡部(1994)にも記述されている。

記録3(渡辺ら1997)は、静岡県富士市で記録されたもので、記録時の状況、記録された個体の行動、測定値、同定の根拠などについての記述が掲載されている。渡辺ら(1997)によれば、捕獲されたのは1997年2月13日で日本初標識記録である。この記録は、山階鳥類研究所(1998)、真木・大西(2000)、五百沢ら(2000, 2004)にも掲載されている。なお、渡辺ら(1997)は、亜種の同定を行っていないが、日本鳥学会(2000)は本記録を *A. a. stegmanni* として掲載している。

記録4(山階鳥類研究所1999)は、北海道で記録されたもので、記録された個体について「1998年10月13日に北海道亀田郡七飯町字飯田町で、田中正彦氏により性別不明・第一回冬羽の1羽が標識放鳥された(3B-79178)」との記述と測定値が掲載されている。また、山階鳥類研究所(1999)に

は、本記録が北海道からは初記録であるとの記述が掲載されている。

この他、真木・大西(2000)によれば、舩倉島および対馬で観察例があるとのことであるが、詳細を記した文献が見つからないので、参考として挙げるにとどめる。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
2. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥550山野の鳥。文一総合出版, 東京。
3. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥550山野の鳥増補改訂版。文一総合出版, 東京。
4. 真木広造・大西敏一 (2000) 決定版日本の野鳥590。平凡社, 東京。
5. 初山徳太郎 (1932) 日本産鳥類の新産地一束。鳥7(33/34): 301-328.
6. 日本鳥学会 (1932) 改訂日本鳥類目録。日本鳥学会, 東京。
7. 日本鳥学会 (1942) 日本鳥類目録改訂三版。日本鳥学会, 東京。
8. 日本鳥学会 (1958) 日本鳥類目録改訂四版。日本鳥学会, 東京。

9. 日本鳥学会 (1974) 日本鳥類目録改訂第5版。学習研究社, 東京。
10. 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録改訂第6版。日本鳥学会, 北海道。
11. 岡部海都 (1994) ヒメイトソヒヨの標識放鳥記録。バンダーニュース (8): 14-15.
12. 渡辺修治・原 徹・原島政巳 (1997) ハシブトオオヨシキリ *Acrocephalus aedon* の日本初標識記録。鳥類標識誌 12(1): 1-41 口絵。
13. 山階鳥類研究所 (1998) 平成9年度環境庁委託調査鳥類標識調査報告書。山階鳥類研究所, 千葉。
14. 山階鳥類研究所 (1999) 平成10年度環境庁委託調査鳥類標識調査報告書。山階鳥類研究所, 千葉。

この報告をまとめるにあたり、文献の提供、記録内容の確認などに協力していただいた、石本賢治氏、梅木賢俊氏、大西敏一氏、小倉 豪氏、片岡宣彦氏、神谷 要氏、中村 司氏、林 吉彦氏、平野賢次氏、藤巻裕蔵氏、前田茂雄氏、前田崇雄氏、前原一統氏、真野 徹氏、山根みどり氏には心よりお礼申し上げます。

* 日本産鳥類記録委員会: 平岡 考・梶田学・池長裕史・亀谷辰朗・金井 裕・川路則友・西海 功・柳澤紀夫

追記:

校正段階で以下の事が明らかになった。

シベリアセンニュウ(記録11)について

- ・石本 (2003) の記録日は誤植であり、正しくは2003年6月8日である(石本賢治氏私信)。
- ・森岡照明(2003) パードウオッチャーの鳥見帳。Birder 17(11): 64-65.を関連文献として追加。

シベリアヨシキリ(記録2)について

- ・山階鳥類研究所(2002)平成13年度環境省委託調査鳥類標識調査業務報告書。山階鳥類研究所, 千葉。を関連文献として追加。